

「幼稚園でネイチャーゲームやってみた。いろんな遊びにつながったよ！」

徳島県シェアリングネイチャー協会 山下達恵

〔はじめに〕

ネイチャーゲームを保育の中に取り入れてみたいというニーズが高まっています。自身、幼稚園や保育の現場に関わり、様々な経験をする中で、ネイチャーゲームのねらいや考え方は、幼児教育に求められている教育内容そのものではないだろうか、と、感じるようになりました。

幼稚園の現場で取り扱われる幼稚園教育要領には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として次のような内容が示されています。

○健康な体と心

自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

○自立心

自分の力でやり遂げる体験などを通じて自信をもって行動するようになる。

○協同性

友達と一緒に目的の実現に向けて考えたり、協力したりするようになる。

○道徳性・規範意識の芽生え

よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになる。きまりをつくったり、守ったりするようになる。

○社会生活との関わり

家族を大切にし、身近な人と触れ合って地域に親しみをもつようになる。また、遊びや生活に必要な情報を役立てて活動し、公共の施設を利用して社会とのつながりなどを意識するようになる。

○思考力の芽生え

身近な事象から物の性質などを感じ取ったり、予想したり、多様な関わりを楽しむようになる。

○自然との関わり・生命尊重

自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。生命の不思議さなどに気付き、動植物を大切にようになる。

○数量や図形、標識や文字などへの感心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しみ、興味や感心、感覚をもつようになる。

○言葉による伝え合い

経験したことなどを言葉で伝えたり、話を聞いたりし、伝え合いを楽しむようになる。

○豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ、感じたことを表現して、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

これらのことを踏まえながら、日々の活動の中にネイチャーゲームの要素を取り入れることによって、子どもたちの遊びが次々と展開されていった様子を報告したいと思います。（今回報告させていただくのは、自分が現在勤務している幼稚園での活動の様子です）

〔実践例〕

○…は幼稚園での各月のねらい等より抜粋したもの

○身近な自然に関わり、美しさや季節の変化に興味を持つ

○友達と思いや考えを伝え合いながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう

毎年4歳児・5歳児の縦割り班、“あるある探検隊”を結成し、園外活動や行事などの時にはそのグループで活動をしています。年少児と年長児が交流することで、たくさんの発見や成長が見られます。

【事例１】

～春のあるある探検隊～

○身近な自然や動植物に親しみ、見たり触れたりして遊ぶ

新学期はじめは近くの保育所や神社までお散歩です。神社の庭にあるものを使って〈同じものを見つけよう〉をしました。先生が見せた自然物２つをどの子も一生懸命捜します。カラスのエンドウと同じかな？と思ってスズメのエンドウを持ってきた子たちも「大きさがちょっと違うけど、おんなじお豆だね。」とお互いの発見を楽しんでいました。

また、別の日には近所の小さな公園へ遊びに行きました。春のあたたかな日をうけて、草花も色とりどりに咲いています。そこで〈森の色合わせ〉をすることにしました。《たんけんルーペ》を使って、４歳児と５歳児がペアになって公園内の散策です。水色がなかなか見つかりませんでしたが、一人が「空を見たら水色があった！」と発見。みんなで一斉にルーペを空に向け、「あった、あった！！」と喜びました。

また、ピッタリの色を捜そうと、自分の思いや考えを伝え合いながら、友達と協力して活動する姿や、年長児が年少児にやさしく教えてあげるほほえましい姿も見られました。

○自然に触れながら遊ぶ中で、試したり考えたり工夫したりして遊ぶ

〈森の色合わせ〉で自然の中にたくさんの色があることを発見した子どもたちは、色を使った遊びを次々と展開していきます。

- ・園庭の草花を使った色水遊び → できあがった色水をプラスチックボトルに入れて、太陽の光にかざすと、きれいな色の影が床に映ります。また、小さなビニール袋に入れて並べてつるすと虹色の天井ができあがりました。
- ・画用紙で作ったチョウチョ → 作ったチョウチョの羽にカラーセロハンを付けると、地面に色とりどりのチョウチョが飛び交います。虫取り網を持ってきた子は、地面に移るチョウチョを捕まえようと、楽しい追いかけごっこが始まりました。
- ・園庭の草花を使って草木染め → 園の畑にある野菜の葉も案外きれいに染まります。

【事例２】

～雨の日さんぽ～

○雨のにおい、音、冷たさなどを全身に感じながら、五感を働かせて活動する

お出かけするのにちょうどいい雨をねらって、あるある探検隊で雨の日さんぽに出かけます。〈フィールドビンゴ〉-雨の日編-を持って、園の周辺を散策します。雨が好きな生き物を見つけたり、雨の音を聞いたり…。園まで帰ってくると、ついにはカッパも長靴も脱ぎ捨てて、ぬかるんだ園庭でどろんこ遊び。小さな川を作って落ち葉を流したり、ダムを造ってみたり、「ぬるぬるじゃ～」といいながら、五感をフル活動させて雨の日の自然を味わいます。

【事例３】

～小さな生き物の世界～

○身近な動植物に興味や関心をもって関り、見たり、触れたり、遊びに取り入れる

虫が大好きな子どもたち。中でも、ダンゴムシはこどもたちの人気ナンバーワン！ 毎日毎日捜すので、どんなところにいるのかは、よく知っています。長い紙の筒を使ってダンゴムシトンネルを作り、その中にダンゴムシを入れて歩かせたり、じっと覗いて自分もダンゴムシになったつもりでしょうか。教室にはいつでも虫眼鏡がおいてあるので、自由に使って〈ミクロハイク〉で小さな生き物の世界に没頭します。そして、先生たちが思っている以上に、子どもたちは生き物をしっかり観察しています。なので〈ノーズ〉をやってもすぐに正解してしまいます。

【事例4】

～お散歩の時見つけた自然物を使って～

○自然に触れながら遊ぶ中で、試したり考えたり工夫したりして遊ぶ

あるある探検隊は、お散歩に出かけるといろいろなものを発見します。竹林にいった時「これって、流しそうめんするやつだろ？」の子どもをつぶやきから、幼稚園でも竹を使ったピタゴラスイッチ作りが始まりました。（本園では、竹や木の板などを組み合わせてドングリ転がしをするような遊びをピタゴラスイッチと呼んでいます）竹を切るのも組み合わせるのも少しだけ先生たちが手助けして、後は子どもたちにお任せです。どうやったらうまく流れるか、友達と協力しながら一生懸命に考えてピタゴラスイッチが完成しました。思うように水が流れると、葉っぱや小さな手作りの船を流して夢中で遊びました。

【事例5】

～あるある探検隊 秋～

○秋の季節の変化を感じながら、身近な自然物を見たり触れたり使って遊んだりする

「幼稚園に来る途中で、ドングリ拾ったよ」と朝一番に報告に来てくれます。山の色が少しずつ変化して、秋の訪れを感じる頃、秋のあるある探検隊が出発です。子どもたちも「いつ、あるあるに行くん？」と、楽しみにしていました。今年は小学校の1年生も一緒になって（幼・小の接続カリキュラムに取り入れました）、近くの神社の森へ出かけました。秋の自然の変化を《ビンゴカード》を使って感じながら、落ち葉や木の実、木の枝などをいっぱい拾ってきます。

拾ってきた落ち葉を教室に広げ、まずは〈木の葉のカルタ取り〉。形や特徴の違いに注目しながら、チーム対抗戦で盛り上がりしました。

次の活動は《ばけばけはっぱ》です。落ち葉や木の実、木の枝などを使って作品を作ります。それぞれの特徴をうまく生かした個性豊かな作品ができあがりしました。一人一人の作品をみんなで鑑賞し、感想をシェアします。もちろん大きなキャンバス（段ボール）に、協同作品も作りました。ゴジラ…かな？

○秋の自然の美しさに触れ、感動したり、工夫して遊びの中に取り入れたりする。

～みんなで作る「わくわくの森」 一本の木に思いを寄せる～

園庭には大きな木がありませんが、昔から残るプラタナスの木が1本だけあります。幹の中が朽ちて樹皮だけになっているような木ですが、毎年たくさんの葉っぱを茂らせてくれます。夏はプラタナスの木陰で、お絵かきやシャボン玉遊び等をして楽しみます。秋に木の剪定を行うと、切り落とした枝を使ってテントを作り、キャンプごっこが始まります。そんな子どもたちにとって大切な存在のプラタナス。秋のあるある探検で遊んだ森を教室の中にも作り、そこにも大きな木を作ろうということになりました。

みんなで作る「わくわくの森」には、落ち葉のカーテンやピタゴラスイッチ、ドングリ人形の家 etc. …が次々と設置されていきます。森の中心には、新聞紙を細く丸めて貼り合わせた幹と紅葉の色を塗った紙を輪つなぎにした葉っぱでできた大きな1本の木が置かれました。すてきな森ができあがって満足げな子どもたちを、その木の周りに寝転ばせ、目を閉じるように促します。カーテンを引き、明かりを消して〈木の一年〉のお話をしました。教室には、スポットライトで照らされた木のシルエットが浮かび上がります。お話が終わり、ゆっくりと目を開けた子どもたちからは、静かなため息とも歓声とも分からないくらいの「わあ～」という声が上がりました。

【事例6】

○冬の自然現象の変化に気付き、触れたり遊びに取り入れたりしながら興味や関心を持って楽しむ。

～雪遊び・氷の世界～

比較的暖かな地域ですが、3学期早々に雪が降り積もりました。子どもたちも先生も一緒になって雪遊びを楽し

みます。園庭の坂道でソリ滑りや雪合戦。雪だるまを作っていた年少さんは、園の畑に植えてあるにんじんを抜いてきて雪だるまの鼻をくっつけています。友達と一緒に手形を付けて、プチ〈このぬけあとだあれ〉をやっている子もいます。タライにできた少し厚めの氷を太陽に向けて、キラキラと光る様子を楽しんでいた子は、お友達にも「これやってみ。きれいだよ」と誘い、氷の世界と一緒に味わっていました。

〔まとめ〕

『体験と学びを深めるネイチャーゲーム』の中には、幼児教育で求められる豊かな体験について次のように書かれています。

「豊かな体験」は、子どもが環境に心を引きつけられ、その不思議さや驚き、おもしろさ、美しさ等の様々な情動や心情に駆られて、対象との関わりに没頭することにより得られる体験です。それは内面を変化させ、自らを取り巻く世界についての新たな気付きを生み出し、「深い学び」となっていくと考えられます。

「自然への気付き」や、その自然への気付きをより深めるための「分かち合い」の精神を大切にするネイチャーゲームは、豊かな体験を作り出すきっかけとなります。

幼児期に様々な形で自然と関わることで、子どもたちは感性を揺さぶられ、たくさんの発見や喜びを得ることができるのではないかと考えています。また、子どもたちの表情やつぶやきから、こうして経験したことが、幼稚園教育で求められている資質・能力を育み、小学校以降の学びにもつながっていくのだと感じさせられました。

幼稚園での遊びの中に、ネイチャーゲームを取り入れることは、それほど難しいことはありません。また、指導者としてネイチャーゲームのアクティビティーをしっかりと、というよりも、ネイチャーゲーム（シェアリングネイチャー）のエッセンスを、日々の保育の中に少し取り入れることで、豊かな体験の機会を広げられるのではないかと考えています。これからも ～わくわくの毎日～ を合い言葉に、子どもたち、先生方と共に楽しさいっぱいのネイチャーゲーム活用の仕方を考えていきたいと思っています。